

わが国の幼稚園におけるごっこ遊びの史的考察(III)

井上 誠子
(四国女子大学)

<はじめに>

これまでに「ごっこ遊びの端緒」として、まず幼稚園での自由遊戯の中に、ままごと、軍ごっこ、学校ごっこ、……おみせやさんごっこなど、さまざまに「ごっこ遊び」がみられたこと。さらに積極的な意味づけとして、新教育的な自覚性を尊重する立場から、自然発生的な「ごっこ遊び」が保育論でもとりあげられ、「動物園ごっこ」などの型で行われはじめたことを考察してきた。

I. アメリカの幼稚園教育の動向

前回にも指摘したように、わが国の幼稚園教育は、アメリカのそれと非常に敏感に受けとめて、行われ傾向が強い。アメリカにおいては、前回考察したように、1910年以降、新教育的なデューイを中心とした進歩派の産業的プログラムの主張が主流となった。

これらが紹介された過程をみると、まず大正9年(1920年)「幼児の教育」5月、6月号誌上に、「幼稚園と小学校との聯絡問題」として、シカゴ教育大学助教アリス・テンポル女史の論文が掲載されている。前がきに「この一篇が在米倉橋主幹よりお送り下さいましたがエレメンタリー・スカラー・ジャーナルの3月号に掲載のもので……」とあり、ちょうど大正8年から11年まで文部省在外研究員として欧米各国に派遣された倉橋惣三がアメリカから送ってきたものが訳されており、当時、アメリカで生活中心主義の保育が注目されていたことがうかがえる。さらにこれは大正13年11月、日本幼稚園協会誌「幼稚園及小学校保育要目」として出版されている。小学校の低学年と幼稚園では、小学校の方が、時間割はもとより、多少固定的ではあるが、自由な、形式にとらわれない幼稚園のようなものであること。さらに、その主題、方法についてみると、社会生活への遊戯的興味を尊重すべきことが述べられている。すなわち「彼等の有する構成的及模倣的の遊戯において、社会生活の特に興味をいたす方面を模倣してあらはすことをよくする。よく、都市の児童が、商店遊び、汽車ごっこ、駅遊び、その他まねごとをしていふを見かける。彼等はかういふ遊びの際に、人形とか、その他の玩具を、実にたゞ彼等の欲する目的に、誠に手近に、たやすく使用してしまふ」(註1) この時、先生は、さらに新しい材

料、たとえば、粘土などを弄ると、扇とかお皿を作る。先生は「お料理するのにつかうものは何処からとっていらっしやるの」というように暗示を弄ると、子どもたちは八百屋を思いつき、野菜や果物が取られ八百屋遊びに発展し、お盆なども作って「賣買ごっこ」が始まるというものである。「幼稚園及小学校保育要目」には「主材、生活行事、自然科学」を保育要目とし、「幼児は自然物、自然現象、人間の活動に多大な興味を持つものである。故に日程を組立るとき際にも、此の二つの経験の間には確然たる区別を取らぬ事を希望する」(註2)として、その方法を三つあげている。その第一番目に「3. 遊び或はこ、この発表の方法に依り、経験を組織立てる事を解する等。……例へば土のお菓子を食さんごっこに就て考へて見れば、先づ起る問題は、如何してお菓子を焼くかと云ふ事だ、其処にはじめて鍋の必要が認められるのである」(註3)というように前と同じような例があげられている。倉橋惣三は、このアメリカの傾向を「心理主義」といふよりも、生活主義といふに近いものになって来た。幼児の生活を、あらゆる具体の意味のもとに、教育に導いてゆかば、方である。最近の保育上の諸説は、皆此の傾向に属しているといふ。しかも此の思潮は、具体的であるだけに、方法としては一層容易でよいところがある」(註4)といっている。

当時アメリカでは、資本主義の上昇期にあり「日常生活のそかでお金儲け問題をひとつひとつ前進的に解決してゆけば、それが個人の幸福も社会の進歩も無限にすすめられゆく」という信念が、容易に人々をとりまくることができた(註5)という状況の下で、「デューイの教育理論は、20世紀の最初の30年間に合衆国全土に普及し、小学校およびハイスクールにのみならず、多かれ少かれ、かれの影響をうけていた。学校はよいとまじみられるに至った。またかれの理論と史料に実行にうつそうとする実験学校も各地に増加し、1919年には進歩主義協会(Progressive Education Association)が設立され、前にのべたように20年代にはこの運動は絶頂に達している」(註6)といふなかで、幼稚園教育も、この傾向が強くつづいた。またデューイは、この時期、中国への講演旅行の途半わが国でも講演し、一層身近になり、彼の主張が全目

されたいと思われり。

II. プロジェクト法の紹介

一方、デューイの進歩的教育思想を伝へたニコロ
ンピア大卒教授キルパトリック(William Heard
Kilpatrick 1871-1965)は「The Montessori
System Examined, 1914」「Froebel's
Kindergarten Principles Critically
Examined, 1916」を著し、形式主義的のロー
ベルの幼稚園やモンテッソーリ教育を批判しながら、
「The Project Method; the Use of the
Purposeful Act in the Educative
Process, 1918」を著して、「プロジェクト法」を
提唱し、社会生活と関連する目的をもつた活動に全精
神を打ち込ませさせるべきだと主張した。

大正10年(1921年)、「幼児の教育」誌上に
東京帝国大学講師久保衣英によって「幼稚園に於ける
プロジェクト」が紹介されている。「プロジェクトと
いふ事が合衆国に流行している。-----例を取って
見ると、クリスマスが近づくとちると、クリスマスが
一の標的になり、クリスマスの装飾や送り物の考案製
作は勿論のこと、クリスマスのお茶、耶穌の伝記、小
亜細亞地方の地理、クリスマスに關する文学的の作品、
例へばクリスマスカロルの研究、詩歌音楽に關する調
査や実習等を行はせり。即ちクリスマスを中心として、
各様の知識を聯絡せしめ、思つ生徒をして自由に創作
し、計画せしめるやうにす。註(1)とプロジェクト法
の例で説明し、さらに郵便局のプロジェクト、幼稚園
に於ける時計屋のプロジェクトとあがて「幼稚園には
一定の教科とか教本とかは無く、これ等に提はれて支
離滅裂な知識を授けたり、又児童の興味や實際生活と
かけ離れた教授をもちこは比較的少なく、謂はば学
校系統中プロジェクトに最も近い保育をして居るので
ある。しかし現在の幼稚園は尚一層プロジェクトの
方法を採用する余地があるやうに思はれる。-----幼
稚園では全部このプロジェクトに改良して差支ないの
ではなからうかと私は考へるのである。註(2)と積極的
な見解をみせている。

奈良女子高等師範学校教授森川正雄は、この著「幼
稚園の理論及實際」の中で、近時、高揚せらるつゝあ
る方法としてプロジェクト法を紹介し、幼稚園に適用し
たプロジェクト法の最も重要な條件は題材を正當に選択
することであると見做して、「(1) 題材は幼児が既にこれ
について観察及経験による若干の知識を有するもの
である事、さうして之について更に多くを學ぶことの

できりものである事が必要である。(2) 題材は能力と
方法との共に於て幼児の成し得る程度にあらしむべく
且つ具体的に實現せられ得るものでなければならぬ。(3)
題材は社会的価値あるものでなければならぬ。(4)
題材は幼児の仕事の種々の部分と分擔し協同して行小
事の出来るものであることが肝要である。註(3)として
「(1) 家及家族 (2) 雜貨店 (3) 市場及農園 (4) 感謝祭
(5) クリスマス祭 (6) 人形の家 (7) ガーランド・イン祭の
会合 (8) 建物の築造 (9) 共同生活の構成」註(4)とあが
ていり。

また昭和2年(1927年)には、キルパトリックは
東京帝国大学で「プロジェクト・メソッドの基礎理論」
の講演を行い、戦国でもこの理論はよく関心がもたれ
る。

<結語>

今回は「どう遊ばせ」が幼稚園の保育の題材として
とりあげられ、さらにアメリカでは、プロジェクト法
として行われたことを考察した。我が国でも、このよ
うな型が「どう遊ばせ」が保育案の中に見られるよう
になるには、誘導保育を主張した倉橋惣三に連貫を當
てなければならぬ。これについては次回で考察した
い。

<引用文献>

- 註(1) アリス・テンプル著 史記、豊子訳 シカゴ大学附属小
学校 p210~211 婦人と子ども第20巻 大正9年
註(2),(3) 万国幼稚園協会著 日本幼稚園協会誌
幼稚園及小学校保育要目 p33~7 教文書院 大正13年
註(4) アトウキ著 島崎定一訳 理想の幼稚園の序文
文教書院 大正15年
註(5),(6) デューイ著 宮原誠一訳 学校と社会 p172
第1巻 昭和三7年
註(7),(8) 久保衣英 幼稚園に於けるプロジェクト
幼児の教育 第21巻 8号 大正10年
註(9),(10) 森川正雄著 幼年建園の理論及實際
p201~206
東洋圖書 大正13年